

## 正保城絵図の朱番号についての考察

油 浅 耕 三\*

(平成12年10月31日 受理)

The Considerations on the Numbered Vermilion Color of the “Shoho Shiro Ezu” (the Maps of Castle and Castle Tawn Compiled by the Order of the Tokugawa Shogunate, 1644)

Kouzou YUASA\*

The compilation of the “Shoho Shiro Ezu” which is presented against Tokugawa Shogunate ended Meireki ages(1656). In the presented after, this “Shoho Shiro Ezu” are numbered the Japanese numeral of vermilion color on the front map. In the present state, the “Shoho Shiro Ezu” scattered more than half the numbers from the “Momijiyama bunko” (the Tokugawa Shogunate library, in the Edo castle). In this paper, the author described, from the side of the numbered vermilion color, about characteristics of the “Shoho Shiro Ezu” .

Keywords : Shiro Ezu (castle map) , Shoho ages, Shoho Shiro Ezu, the Tokugawa Shogunate, Iemitsu Tokugawa, Chikugo-no-kami Inoue, Morishige Kondo, Momijiyama Bunko, Han(feudal domain), Shiro (castle)

### 1. 緒 言

正保元年（1644）の幕命によって全国の大名が調製し提出した正保城絵図（以下、城絵図と省略する）は、国絵図と共に明暦2年（1656）までに幕府へ提出されたと考えられる<sup>1)</sup>。

この城絵図は、提出後番号が朱書され、江戸城内の紅葉山文庫で管理されてきたが、その後、文庫より流出<sup>2)</sup>し、現在は63枚が国立公文書館に伝えられている。

本稿は、従来考察が加えられてない朱番号の側面より、城絵図のもつ特質をみようとするものである。

### 2. 朱番号の書き込み様態

---

\*建築学科 教授

城絵図（「Fig. 1・2」参照）は、和数字で、城絵図を折り畳んだ表面の左上部に「朱番号」が、その下部に「欠朱番号」がそれぞれ書き込まれている。

また、国立公文書館の城絵図には、この朱番号の右肩に「改朱番号」が小さく書き込まれている。朱番号の書き込み巾は、朱番号が約5 cm、欠朱番号が約4.5 cm、改朱番号が約2.5 cmの3種類の形をとっている。

この「欠」を朱書きした時期と関連することとして、会津と村上の城絵図には、会津では外題部分「陸奥之内会津城絵図」の「会津」のところに朱点を付し「若松」と書き記している。同様のことは村上の城絵図でもみられ、「越後国村上城絵図」の「村上」のところには、「本庄」と誤ったままでの朱書状態がみられる。

これらの朱による書き込みは、城絵図提出後のある時期において、何らかの整理に絡んで書き込まれたとみることができる。

### 3. 朱番号

幕府へ提出された城絵図の朱番号を整理したのが、「Table 1」である。

このうち、現状で朱番号のみられない城絵図として、東海道の小田原、東山道の烏山、山陽

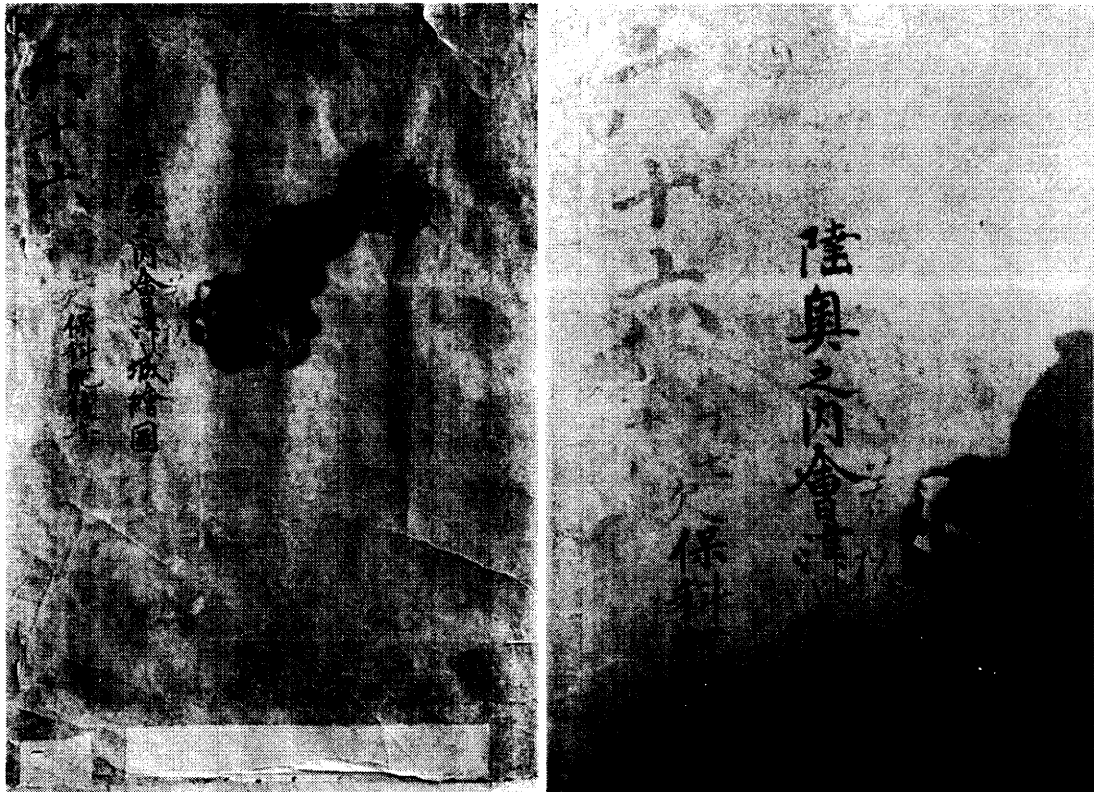


Fig.1 The numeral number of vermilion color of “Mutsu-no-uchi Aizu Jo Ezu” (“Shoho Shiro Ezu” of Aizu, possession of the Fukushima prefectural museum)

道の津山があげられるが、津山については他の城との続きから「121」番と考察できる。

ところで、当時の道別国別の城を伝える史料として『近代諸城主次第』<sup>3)</sup> (以下、『城主次第』と省略する) が存在する。



Fig 2 “Mutsu-no-uchi Aizu Jo Ezu” (“Shoho Shiro Ezu” of Aizu, possession of the Fukushima prefectural museum)

城絵図の朱番号と『城主次第』での城の順序をみると、異なるところが特に東山道で見られるものの、全体としては類似しているといえる。ここでは、この『諸城主次第』と対応させつつ考察を進めてゆくこととする。

畿内をみると、大和郡山が「3」の朱番号となっている。『城主次第』との関係でみると、山城国で始まり大和国と続く順序を考えると、山城国の二条城は幕府の番城であり、大和国の高取の城絵図<sup>4)</sup>も伝えられ、和泉国の岸和田が「4」の朱番号として続いていることから、朱番号の「1」は、山城国の淀城であると考えられる。

Table 1 The numeral number of vermilion color of "Shoho Shiro Ezu"

	城名	朱番号	欠朱番号	改朱番号		城名	朱番号	欠朱番号	改朱番号	
畿内	大和郡山	3		1	東山道	新庄	80		32	
	岸和田	4		2		上山	81		33	
東海道	桑名	7		3	本庄	82		34		
	伊勢亀山	8		4	米沢	89	90	35		
	松坂	11	12・13・14	5	北陸道	丸岡	93	94	36	
	西尾	20		6		高田	100	101・102		
	刈谷	21		7		長岡	103		37	
	田原	22		8		新発田	104		38	
	掛川	23		9	村上	105	106・107	39		
	小田原			10	山陰道	福知山	108		40	
	世喜宿	32		11		笹山	109		41	
	古河	35		12		丹波亀山	110		42	
	水戸	36		13		松江	116		43	
	笠間	37		14		津和野	117		44	
	東山道	膳所	39		15	山陽道	明石	120		45
		大垣	40		16		津山			46
岩村		43		17	岡山		122		47	
上田		47		18	備中松山		123		48	
高遠		50		19	三原		125		49	
飯山		51		20	福山		124			
沼田		55		21	広島	126		51		
鳥山					南海道	新宮	129		52	
仙台		61				徳島	131		53	
白石		62	63・64	23		丸亀	133		54	
白河		65		24		大洲	136		55	
会津		66	67・68		高知	138		56		
二本松		69	67・68	25	西海道	小倉	142		57	
盛岡		70		26		竹田	143		58	
弘前	74	75	27	臼杵		144		59		
棚倉	76		28	大分		146		60		
山形	77		29	日出		147		61		
東根	78		30	唐津		148		62		
秋田	79		31	八代		153		63		

また、伊勢国の桑名は「7」の朱番号であるため、幕府の城代が置かれた大坂城の城絵図も二条城と同様に調製されず、関連して江戸の城絵図も、一連の城絵図の中には存在しなかったとみられる。

城絵図は、支城である三原（備後国）が、本城である広島（安芸国）より前の朱番号となり、和歌山藩の飛地である松坂が伊勢国での朱番号としてみられるように、「五畿七道」に沿って、畿内より国ごとに続き朱番号として書き込まれている。

一方、名古屋<sup>5)</sup> 水戸<sup>6)</sup> にみられるように、御三家の城絵図に加えて白石・東根・富山<sup>7)</sup> 三原・八代<sup>8)</sup> のように支城も提出されている。

#### 4. 欠朱番号

八代の朱番号が「153」であり、改朱番号が「63」であることから、八代までで90の城絵図が流出している。

また、欠けている城絵図では、朱番号の繋ぎから、東海道で土浦(38)が、山陰道では、丹波亀山(110)のあとの城絵図として、田辺(111)・宮津(112)・出石(113)・鳥取(114)・米子(115)が考えられ松江(116)へ繋がるとみられる。

「欠」と書き込みのある城絵図は、14枚であり、157枚<sup>9)</sup>と伝えていることと対応して考えると、143枚が存在することとなる。現状で欠けている絵図の中に欠番号の書き込みのあったであろうことも考えられ、欠の朱書は、131枚<sup>10)</sup>と伝える元治元年(1864)での書き込みとみることもできる。いずれにしても、元治以降において半数以上の城絵図が流出していることが、欠の書き込みの面でもいえる。

#### 5. 改朱番号

改朱番号では、大和郡山の城絵図に「改一」と書き込まれ、同様の字体で「諸国城郭絵図 残欠六十三枚」とあり、八代には「改六十三止」がみられる。

現状では、補修に係り紙片が貼られるなど、改朱番号がみられなくなっている城絵図も存在する。

しかしながら、城絵図には朱書とは別に、朱書の改番号と同じ番号を墨書で記した付箋がある。この付箋より、烏山の改朱番号は「22」、福山の改朱番号は「50」とみられる。

#### 6. 結 言

城と朱番号の順序より、江戸・二条・大坂の城絵図は存在しなかったと考えられる。

御三家のほか、本城と共に支城を含めた城絵図が提出されていたことが確認でき、元和元年(1615)の一国一城令で支城の破却が命じられたものの、支城の実状の一端を本考察より窺えることができた。

また、本城と支城は、同じ調製条項に沿って作成された城絵図であっても、名古屋・犬山、仙台・白石、山形・東根、広島・三原、熊本・八代の城絵図でいえるように、他の城絵図に比して用語や字体を含め特に表現内容がよく類似している。

松坂・新宮の城絵図もよく類似しており、流出したとみられる本城である和歌山の城絵図も、松坂・新宮と同様な表現様態であったことが考えられる。

一方、改朱番号のない会津・仙台・高田の城絵図は、朱番号の変遷をたどる上で重要な根拠となる。

今後は、八代に続く朱番号をもつと考えられる延岡・鹿児島などの城絵図について、調査を進めるべきであろう。

### 文献

- 1) 油浅耕三：正保城絵図の最終提出年に関する考察, 新潟工科大学紀要, 4, p p. 23-28, 1999.
- 2) 油浅耕三：流出した旧紅葉山文庫蔵会津・仙台・高田の正保城絵図についての一考察, 日本建築学会計画系論文報告集, 377, p p. 119-128, 1987.
- 3) 『近代諸城主次第』(大類伸編『日本城郭史料集』, 人物往来社, 1968) .
- 4) 『和州高取城山之絵図』(天理大学附属天理図書館蔵).
- 5) 『(名古屋城絵図)』(徳川美術館蔵). 正保4年と考察されている.
- 6) 御三家の1つ和歌山城の支城である新宮の城絵図が「129」の朱番号として存在する. 広島城絵図が「126」で、萩の城絵図が存在(『長門国阿武郡萩城絵図・萩市郷土博物館蔵』, 慶安5年-1652-) する. 同じ国の中では本城・支城の順で朱番号の書き込みがみられる(仙台・白石, 山形・東根) 点を踏まえると、長門から紀伊へと繋がる和歌山の城絵図は「128」の朱番号として存在したとみられる.
- 7) 『越中国富山城絵図』(金沢市立玉川図書館蔵). なお、『古ヨリ公儀江被上候御城絵図御国絵図改申品々之帳』(金沢市立玉川図書館蔵) によると、金沢藩では、富山と共に金沢・小松・大聖寺の城絵図を各1枚幕府へ提出している.
- 8) 八代の本城である城絵図『平山城肥後国隈本城廻絵図』(熊本県立図書館蔵) が存在する.
- 9) 『近藤正齐全集・第3巻(好書故事)』, 国書刊行会, 1906, p. 117.
- 10) 『元治増補御書籍目録』(国立公文書館蔵) .